

●三位一体後第八主日

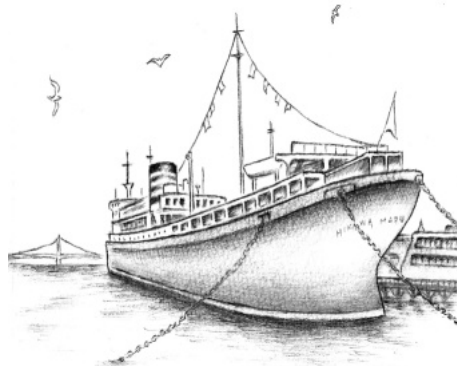
泉のほとり

今月の詩編「第百二十六編」

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。



聖霊に逆らう者、満たされる者

ステファノは聖霊と信仰に満ち、素晴らしいみわざを行い、教会内外で信仰による良いわざをなしていました。

しかし外国出身のユダヤ人たちが彼に反発し、捕らえ、最高法院で「神を冒している」と偽りの告発をしました。

その人々に対して、ステファノは「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち。あなたがたはいつも聖霊に逆らっています」と告げます。

申命記一〇章に「心の包皮を切り捨てよ。かたくなになつてはならない」とあります。「心の割礼」を受けている状態は、神の御言葉や人の忠告を通して自分の罪や過ちが明らかにされた時、心と耳を開いてその言葉をもつ直ぐに受け止め、自分の真実な姿を認める、その素直な心で生きている状態です。人は指摘や忠告を受けると抵抗や恥や苛立ちを覚えますが、神が求められるのは、プライドや自己正当化といった真実を妨げる心の包皮を切り取り、かたくなさを脱ぎ捨てて心と耳を開くことです。

しかし、先祖たちは自分たちは神の民だと信じていながら、預言者たちが救い主の到来と共に語った罪の悔い改めの呼びかけに耐えられず、激しい怒りを燃やして預言者たちを迫害し殺してきました。また、いまステファノの目の前にいるものたちの元にはキリストが遣わされました。主は罪の悔い改めを告げ、福音を語り、あらゆるみわざをなされました。しかし、先祖たちと同様、彼らは主の言葉に心と耳を閉ざしていました。イエスを捕らえてローマ総督ピラトのもとに引いて行き、「この男は民を惑わしている」と偽証して十字架に迫りやり、殺したのです。その人々にステファノは「あなたがたは正しい方を殺した。聖霊に、神に逆らっている」と告げたのです。

人々はステファノの言葉を聞いて激しく怒り、歯ざしりしました。誰一人として自分の罪を認める者はいませんでした。彼らは分厚い包皮に心が覆われ、心と耳に割礼がなく、神の前に心を開かなかつたのです。

その時、突然天が開き、ステファノには神の栄光と神の右の座に立つておられる主イエスが見えました。

しかし人々は天に目を向けることなく、彼を襲い、都の外まで引きずって行き、石を投げつけました。死が間近に迫る中、彼は「主イエスよ。わたしの霊をお受けください」と呼びかけ、更に「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で叫びました。これは十字架上で「父よ、彼らをお赦しください」と祈られた主イエスの姿そのものでした。ステファノは最後の最後まで、自分を迫害する者たちのために執りなし、神の前に心と耳を開いて神に立ち返るよう願い、殉教を遂げました。

ステファノも初めから主イエスのお姿であつたわけではありません。彼も罪ある人の一人でしたが、自分の罪のために死なれた主イエスと出会い、主と結ばれ、真実な御言葉を心と耳を開いて真つ直ぐに受け止めてきました。心と耳に割礼を受けた柔らかなで素直な心で歩んできた、その彼に天からの助けがあり、聖霊のお働きがあり、罪や悪しき心が一つ一つ癒され、霊的に成長し、主イエスのような姿にまで造り変えられていったのです。

主の御言葉を通して自分の罪や過ちに気づかされた時、心と耳を閉ざさず真つ直ぐに受け止め、プライドや自己正当化を脱ぎ捨てて心を開く、常に柔らかなで素直な心を持つて神の前を歩んでいきたいと思えます。心と耳に割礼を受けたものたちに、主イエスは応えてくださり、天からの助けを与え、素晴らしい賜物を豊かに授けてくださいます。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○今日の礼拝後、全体での集会はありません。

○明日（一日）月（午前一〇時から午後三時の予定で、聖書通読会を行います。今回は「フィリピの信徒への手紙」を読みます。場所は地下ホールです。どうぞご参加ください。

《ぶどうの会より》

礼拝後、第二、三シオンルームでぶどうの会を行います。

《伝道カテゴリーより》

次週一七日、主日礼拝後一二時三〇分より第二、三シオンルームにて伝道カテゴリー奉仕者全体会を開催します。伝道カテゴリー運営メンバーおよびサポーターメンバーの教会員はご参加ください。

《教会事務所より》

一日（月）～一六日（土）まで教会事務所、附属幼稚園共に夏季休暇に入ります。期間中は教会内に入ることができませんので、ご承知の程、宜しく願います。（通読会の時間帯を除く）

《ルツの会より》

次週一七日、礼拝終了後一五分後からカナンルームでルツの会を行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十六篇】 都に上る歌。

主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて

わたしたちは夢を見ている人のようになった。

そのときには、わたしたちの口に笑いが

舌に喜びの歌が満ちるであろう。

そのときには、国々も言うであろう

「主はこの人々に、

大きな業を成し遂げられた」と。

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。

主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように

わたしたちの捕われ人を

連れ帰ってください。

涙と共に種を蒔く人は

喜びの歌と共に刈り入れる。

種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は

（司・会）

束ねた穂を背負い

喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「神の前を生きるダビデ」

聖書 サムエル記下6章12〜22節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「自分の弱さを認め、願う求める」

聖書 列王記上3章4〜10節

説教者 宮間彰広兄

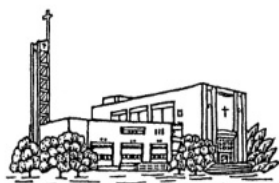
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 7番 225番

説教 「わたしたちを救う名は」

聖書 使徒4章5〜22節

説教者 吉村和雄 名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 70番 284番
説教 「言われた通りにするだけで」
聖書 列王記下5章1～14節(旧約 P.583)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「イエスよ、私は主の名を呼ぶ」J.S.バッハ

○讃美歌70番

1. 父 み子 み霊の ひかりの主よ
我らのこころの 闇を照らし
主の宿りたもう きよき幕屋
けがれなき宮と なされたまえ
2. みまえに仕うる みつかいらは
み顔をあおぎて たたえうたう
泥なる我らも ほめうたをば
真心をこめて 捧げまつらん
3. 輝きかがやく みすがたには
みつかいの群も おもてを伏す
朽つべき我らは いかにすべき
みゆるしを祈る ほかはあらじ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌284番

1. 主のとうときみことばは わがいのちのもといなり
たよるわれは安けしや 世にまたなきみことばよ
2. 「ただ我のみ汝が神ぞ おそれず行け ためらわで
ちからつよきわがかいな なれにそいてはなれじな
3. なやみの火は燃えあがり なげきの河あふるとも
めぐみの手にすがりなば つねに勝ちてあまりあらん
4. 老いの坂をのぼりゆき かしらの雪つもるとも
かわらぬわが愛におり やすけくあれ わが民よ」

聖餐曲「鹿のように」M.ハイストロム

後奏曲「即興曲op.90-3」F.シューベルト